

幾春別川ニュース

創刊号
VOL.01

発行元: 幾春別川ニュース編集委員会
編集委員長 嵯峨 森輝

〒068-0007

岩見沢市7条9丁目 石狩川開発建設部岩見沢川事務所内編集委員会事務局
TEL 0126-23-9555 FAX: 0126-25-1697



大地と人間が織り成す四季折々の風景



幾春別川(三笠市)



幾春別川(三笠市)



幾春別川の 魅力再発見

発刊のあいさつ

今回、「幾春別川をよくする市民の会」「三笠の湖・川・緑を愛する会」「北村の川を愛し・良くする会」「山のない北村の輝き」の4つの市民団体と、岩見沢市、三笠市、美幌市、北村の各自治体、そして、石狩川開発建設部の多大な協力を得て、『幾春別川ニュース』(仮称)を発刊することになりました。

各市民団体や石狩川開発建設部が取り組んでいる川に関するさまざまな情報を、流域に住んでいる人々に発信していきたいと思えます。

情報を発信することで地域住民の要望やニーズを受信し、また、情報を共有化することで各市民団体の活動の輪を広げ、そして、幾春別川流域の一層の連携を図って、21世紀の河川行政や市民活動の展開に寄与していきたいと考えております。みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。

幾春別川ニュース編集委員長



明治初期から上流にあっては、かつての遊樂が昭和40年代に閉山するまで、幾春別川は「川」だという幾春別川

現在の幾春別川は本来の姿に戻したい姿を取り戻し、私たち人間や動物たちに様々な恵みをもたらしてくれています。

川への色が染まる春、湧き出る清流が響く夏、赤や黄色に彩られて紅葉の名所となる桂沢の山々など、幾春別川周辺には、大自然が豊かに育つ四季折々の美しい風景があります。そして、幾春別川の流れる田舎を離れ、私たちの暮らしを支え続けてくれています。

時には洪水が脅かすこともありますが、今では多くは、釣りやカヌーなどのレジャーを楽しむ、地域に住む人々にとって幾春別川は、「親しむ川へ」変わってきています。

また、レジャーだけではなく、種魚を放流してリクリを呼び戻す運動や、ごみ拾いなどの河川の清掃を行い、次の時代へ川を大事に守り伝えていくことを目指しています。

こうした活動は、自分たちの住む地域に誇りをもち、地域を愛し、地域を育てていくことの熱い思いを持って人々によって支えられています。それは、岩見沢三笠美幌そして北村に住んでいる、自然の恵みと、大地でたくましく生きていく人々なのです。

こぼれ話 part1

知っていますか?

「名前の由来」

北海道の地名は、先住民族であるアイヌの人たちの言葉や開拓のころ、その地域に入植した人々の名前にちなむものなど、様々な由来があります。

幾春別川は、アイヌ語が語源とされています。昔、彼方に住んでいたアイヌの人たちが「彼方の川」と言う意味の「ア・クシ・ウ・ベツト」は「それ」(クシ)は「彼方」(ベツト)は「川」にある「ベツト」は「川」の意味と判っていたのが今の地名となりました。

明治中ころまでは「都春別」と書いて、しました。その後現在の幾春別川になりました。



